

はじめに

- 近年、医療制度改革の一環として、診療所、地域医療支援病院、特定機能病院など様々な医療施設の役割や連携等のあり方が議論されている。
- 今回、医療施設体系に関する国民の意識を把握するため、インターネットによるアンケート調査を実施した。

調査概要

- 調査期間
2006年12月19日～22日
- 調査対象
インターネット調査会社Yahoo!のモニター登録者(約55万人)のうち、20歳以上の一般市民1248名
平成17年度患者調査の年齢階級別推計患者数をもとに調査対象者を年齢構成別に割り付けた
- 調査方法
インターネット調査
- 調査項目
 - 属性(年齢・性別・定期的受診の有無)
 - 診療所の標榜科に関する認知及び安心感
 - 診療所の振り分け機能への安心感
 - 各医療機関の名称の認知

結果

- 回答者は、70代以上41.0%(512名)、60代24.7%(308名)、50代15.5%(193名)、40代7.7%(96名)、30代7.3%(91名)、20代3.8%(48名)であった。
- 回答者のうち、入院中・定期通院中の人は48.3%(603名)であり、51.7%(645名)は定期通院なしであった。

(1) 診療所の標榜科に関する認知及び安心感

- 家の近くに新しい診療所が開院したと仮定します。看板には、「内科、消化器科、皮フ科」と書かれています。この診療所の専門について、当てはまるものと思われるものを選んでください。
- 「3つすべてが専門」と回答した人は全体の35.2%(439名)であり、「1科のみが専門」と回答した人は57.7%(721名)、「わからない」が7.1%(88名)であった。
- 「1科のみが専門」と回答した診療科の内訳は、「内科」が49.1%(613名)で一番多く、「消化器科」5.8%(73名)、「皮フ科」2.8%(35名)であった。

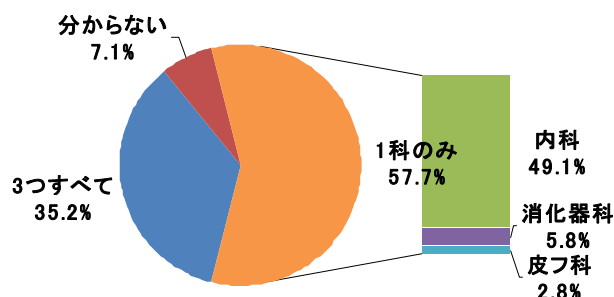


図1 診療所の標榜科に対する患者の認知

- 診療所の看板に複数の診療科が表示されているのを見て、あなたはどのように感じましたか。
- 「安心」が42.0%(524名)、「不安」が47.7%(595名)、「その他」が10.3%(129名)であった。
- 「不安」と回答した人の割合は、年齢が高くなるほど上昇する傾向がみられた。(p<.001)
- 「3つすべてが専門」と回答した人の60.4%が「安心」であるのに対し、「1科のみが専門」を回答した人の58.0%は「不安」と回答した。

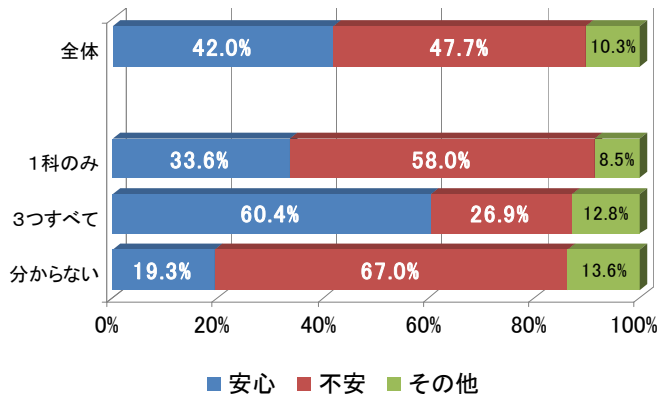


図2 診療所の標榜科と患者の安心感

(2) 診療所の振り分け機能への安心感

- 診療所と病院とでは、それぞれ地域で果たす役割が異なるため、病院で受診する際は診療所からの紹介状が必要になることがあります。あなたの考えに最も近いものを選んでください。
- 「必要に応じて紹介してくれるから安心(とても安心・安心)」と回答した人は71.9%(898名)、「必要に応じて紹介してくれないから不安(とても不安・不安)」と回答した人は28.0%(350名)であった。
- 定期通院をしていない人は、入院中・定期通院中の人よりも「不安」と回答する人が多かった。(p=.001)

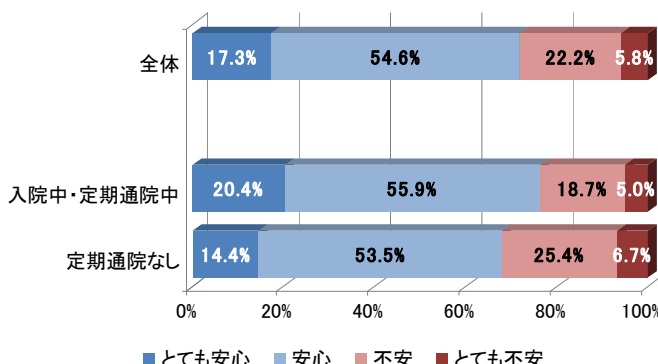


図3 診療所から病院への紹介に対する安心感

(3) 各医療施設の名称の認知

- 「大学病院」「特定機能病院」「地域医療支援病院」の言葉を聞いたことがありますか。
- 大学病院に対する認知度は96.2%(1200名)と高いものの、特定機能病院38.3%(478名)、地域医療支援病院35.4%(442名)と認知度は低い傾向にあった。
- 年代別による医療施設の名称に対する認知には、回答格差が見られた。大学病院に対する認知は、各年代で約9割と高かった。
- 特定機能病院に対する認知度は年齢が高くなるほど上昇する傾向がみられた(p<.001)。他方、地域医療支援病院や大学病院については年齢による認知度の差はみられなかった。(p=n.s.)

考察とまとめ

- 本調査より、国民は医療施設の標榜科・名称および役割等に関する理解および解釈が十分ではないことが示唆された。これらの点について、国民により分かりやすい情報を提供することが必要と考える。
- 本調査では、現在の標榜科や診療所の振り分け機能について、一定割合の国民が不安を持っていることが明らかになった。今後の医療施設体系のあり方を検討するにあたっては、国民の認知や意識を精査して、不安の解消に努めることが望まれる。
- なお、本報告は、厚生労働省「第4回医療施設体系のあり方に関する検討会」において報告した「医療施設体系に関する国民の意識調査結果(第1報)」の続報である。